

Society for Risk Analysis Annual Meeting 2016 に参加しました(2016/12/11-15)

テーマ：気候変動, 干ばつ, 自然災害, 減災教育
 場所：サンディエゴ, アメリカ合衆国

2016年12月11日(日)から15日(木)にサンディエゴにおいて Society for Risk Analysis Annual Meeting 2016 が開催され、当研究所のイ・ケリン助教(地域・都市再生研究部門)と保田真理助手(災害リスク研究部門)が参加しました。Society for Risk Analysis は、政治、経済、環境等に関連した多種多様なリスクとその解決手法を議論する場であり、世界中の政府、業界、コンサルティング会社、NGO、学術機関の研究者が集い議論をする場所になっており、社会問題のトレンドがいち早く発信される場所でもあります。

イ・ケリン助教は、Thailand's granary faces risks of drought due to climate change に関してポスター発表を行い、保田真理助手は、Educational tools for risk recognition and awareness of disaster mitigation as needed to lessen damage from tsunamis と題して口頭発表を行いました。2011年に大津波があった事は認知されていますが、欧米の関心は気候変動リスクのほうが高いようです。現在の復興状況や地元の研究教育機関がどのように復興過程に関わり、今後のリスク認知を深めて行くのかを今後も定期的に発信して行きたいと思えます。



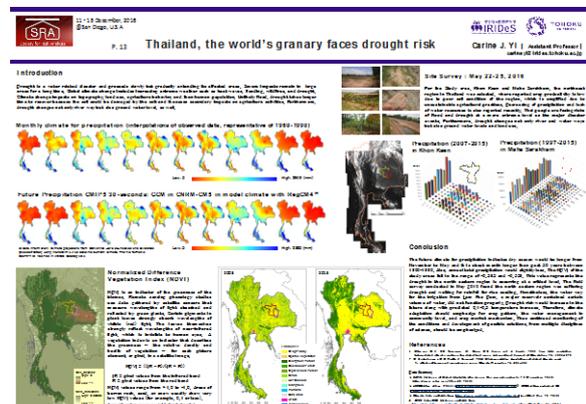
SRA Annual Meeting



保田真理助手の口頭発表



イ・ケリン助教のポスター発表



イ・ケリン助教のポスター

文責：保田真理(災害リスク研究部門)